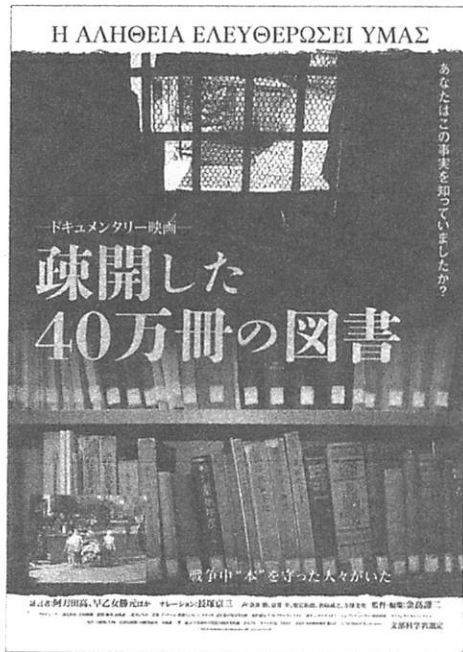


疎開した40万冊の図書上映

10・11日に 安房地域母親大会開く 館山コミセン

監督トークも

「女性と子どもの目から安房での戦争を見つめよう」をスローガンにした第21回安房地域母親大会(同実行委員会主催)が、10、11の両日、館山市コミュニティセンター第1集会室で開かれる。ドキュメンタリー映画の上映と監督トークを主体に、平和について考える場。10日には「おやこピエスカフェ」があるほか、両日ともパネル展示、11日にはワークショップを予定。上映協力券(チケット)を500円で販売している。



映画「疎開した40万冊の図書」のポスター品。館の復興も描かれている。文化について考えてさせる作品。

太平洋戦争末期、東京「書」(金高謙二監督)を上生、疎開先で土蔵を提供都立日比谷図書館の蔵書 映す。戦時下で生きるした村人の思いが交錯を疎開させた史実に基づく、ドキュメンタリー映画「疎開した40万冊の図書」を守った図書館員、高校筆稿本「南総里見八犬伝」もこの疎開で戦火を免れたという。映画では東日本大震災で被災した図書館の復興も描かれている。文化について考えてさせる作品。

上映は2日間とも午後1時半から。3時半から金高監督のトークを予定。金高監督は国立館山海員学校(現館山海上技術学校)卒。外国航路の船員を経て人形劇団員。2013年に本映画を制作している。

10日は午前11時からパネル展示「安房での戦争」を忘れずに伝えたいこと〜。10時半からは「おやこピエスカフェ」で疎開体験者の話を聞く。

11日は午前10時からパネル展示、10時半からはワークショップ「禁止唱歌と替え歌」、語り、「禁演落語」などが予定されている。未婚者や男性でも参加できる。10日のみ保育があるという(要予約)。上映協力券は宮沢書店本店と鴨川書店で扱っている。

問い合わせは石井麻美子さん(080-5551-6-9926)、関恵美子さん(090-5762-5956)へ。